

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 14 日現在

機関番号：13601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2014～2016

課題番号：26870238

研究課題名(和文)自由画教育運動を契機とした美術教育の地域的展開 - 石井鶴三関連資料の整理・分析

研究課題名(英文) Study of the Movement in Art Education after Jiyuga Kyoiku in Nagano Prefecture: Survey on collections related to ISHII Tsuruzo owned by Shinshu University.

研究代表者

大島 賢一(OOSHIMA, Kenichi)

信州大学・学術研究院教育学系・助教

研究者番号：90645615

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：1)信州大学所蔵石井鶴三関連資料のうち、長野県教育関係者から差し出された信書1,140点のリスト化及び、スキャニングによるPDF化の実施。また一部資料の翻刻。
 2)信書差出人についての調査を通しての、大正期からの長野県美術教育関係者の人脈についての把握。
 3)信濃教育会機関紙『信濃教育』などの関連資料を含めた調査による長野県美術教育界における石井鶴三の位置付けの確認。

研究成果の概要(英文)：(1) I have scanned 1,140 letters included in the collections related to ISHII Tsuruzo, which are owned by Shinshu University. These letters were sent to ISHII Tsuruzo by people who were concerned with art education in Nagano Prefecture. I have deciphered and reprinted some of the letters.

(2) I revealed a part of the network of people who concerned with the art education in Nagano Prefecture from the Taisho era to Showa era by conducting a research on the people who sent the letters to ISHII Tsuruzo.

(3) I showed the influence of ISHII Tsuruzo on the education of Nagano Prefecture by examining the articles in "Shinano Kyoiku" (the bulletin of Shinano Kyouiku kai) and other related documents.

研究分野：美術教育学

キーワード：美術教育史 石井鶴三 長野県 美術教育 教員研修 彫塑教育 大正自由教育 自由画教育運動

1. 研究開始当初の背景

東京芸術大学彫刻科教授であった石井鶴三(1887-1973)は、彫刻のほか、挿絵画家としては中里介山『大菩薩峠』や吉川英治『宮本武蔵』などの挿絵を担当するなど、絵画や版画などの方面でもマルチに活躍をした芸術家として知られる。

その一方で、交流のあった山本鼎に協力し、児童自由画協会の会員になったり、自由学園の美術教師を務めたりするなど、高等教育以外の美術教育にも関わっていたことが確認できる。

また石井は、長野県の上田市で、1924年から、1945年を除き、今日まで毎夏行われている彫塑講習会の講師を、初回から1970年まで務めた。この講習会は、長野県的美術教師たちによって企画されたものであり、この講習会を通して、当地の多くの美術教師たちが石井の薫陶を受けた。そして、この講習会を皮切りとして、伊那地域、長野地域、木曾地域など、長野県内各所において、石井を講師として招き、彫塑・絵画の講習会や講演会、児童画展覧会が開催された。

このように、石井鶴三は、大正期から昭和期にかけて長期にわたり長野の美術教育に様々に関わっている。それらの機会に石井の教えに触れた多くの教育者たちが、長野県的美術教育を形作ってきたことは想像に難くない。時代的にも、自由画教育運動を一つの契機とし、今日へと続く長野県の近代的美術教育の形成の只中に、石井鶴三という人物がいたと言える。

大正時代に山本鼎が展開した自由画教育運動は、日本美術教育史研究における重要な研究対象であり、これまでに様々な研究の積み上げがある¹。また、その地方的な展開について注目する研究もなされており、長野県における自由画教育運動の地域的な受容や展開についての研究としては、都築邦春による、松本女子師範学校の図画・手工教諭であり、アルスより出版された『児童の図画』の著者である藤岡亀三郎についての研究²や、宇田秀土による、竜丘尋常高等小学校の教師であり、山本鼎に現場のパトロンと評された木下紫水についての調査研究³がある。これらの研究は、自由画教育運動提唱以前の長野県的美術教育界において、その運動を受容するための土壌がいかに形成され、先鋭的な教師達はその運動の初期に合流していったかという点の解明に力点が置かれており、一般教員達を含め、長野県の教育界全体が自由画教育運動をどのように受容し、その影響下において美術教育思想を形成していったかに注目した研究は十分になされているとは言えない。

信州大学附属図書館は、2010年に石井鶴三関連資料28,907点の寄贈を受けた⁴。この資料群の中には、石井と交流のあった長野県の教師たちから差し出された信書が複数含まれていた。これらの信書は石井と長野県の

美術教師たちの関わりの始まった大正期から、石井没後に石井の遺族との間に交わされたものまでが含まれており、長期間にわたる芸術家と教師達の交流の記録であると言える。この中央画壇で活躍した美術家と地方の美術教師達の交流の記録を読み解きながら、自由画教育運動以降の長野県美術教育の展開について明らかにする手がかりを得ることができると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、2010年に信州大学に寄贈された石井鶴三関連新資料の整理と分析を通して、長野県美術教育史における石井鶴三の位置づけを明らかにし、自由画教育運動以降の長期的な長野県的美術教育の展開の一側面を明らかにすることを旨とする。本研究の目的は以下の3点にまとめられる。(1)信州大学所蔵石井鶴三資料の整理および分析。アーカイブの作成。(2)長野県における、自由画教育運動を切っ掛けとした美術教育の史的展開と、その実態の解明。(3)自由画教育運動および、長野県美術教育界との関わりを中心とした、石井鶴三の足跡、思想、実践、交流関係の解明。美術教育史への定位。

3. 研究の方法

本研究は、信州大学の所蔵する石井鶴三関連資料の物理的な整理と、その内容の解明、及び、関連資料の調査によって遂行される。

研究に先立って、石井鶴三、長野県美術教育史及び自由画教育運動等についての先行研究の収集、整理を行なった。特に石井鶴三については、『石井鶴三全集』などによりながら、その生涯や長野県教育界との関わりについて整理した。

信州大学所蔵石井鶴三関連資料の整理としては、長野県教育関係者を差出人とする石井鶴三宛て信書の抽出と、リスト化、及びスキニングによるデジタル化を行った。また、『石井鶴三全集』、『石井鶴三日記』、『石井鶴三書簡集』などと照らし合わせながら、それぞれの信書の背景についての調査を行なった。

信書整理の過程において明らかとなった、石井鶴三宛て信書の、長野県美術教育にゆかりがあるとみられる差出人について、『長野師範人物史』、『長野県美術大辞典』などの資料にあたり、調査、特定を行った。

『信濃教育』を始めとする往時の資料にあたり、長野県における石井鶴三の具体的活動や、教育界におけるその受容について検討を行なった。

4. 研究成果

(1)信州大学所蔵石井鶴三関連資料に含まれる信書のうち、長野県教育関係者を差出人とする物についての整理・調査を行なった。

信州大学所蔵石井鶴三関連資料については、附属図書館が中心となって行なっていた

これまでの調査により、総資料点数 28,907 点について、仮番号が付され、資料種毎に分類が行われていた。これらの資料のうち、11,017 点が信書に分類されている。

この 11,017 点については、差出人、発送地などの基礎情報が入力されたデータベースが作成されている⁵。本研究では、このデータベースに基づき、調査対象となる資料の選定を行なった。まず、発送地が長野県となっている信書について、リストアップし、調査対象資料とした。次に、長野県を発送地とする書簡を有する差出人の書簡についてリストアップし、調査対象資料に加えた。これは、リストの中に汚損や封筒の消失などによって、差出人のみ判明しており、発送地について不明となっているものが含まれるためである。加えて、差出人、発送地共に不明となっているものについて、現物を確認し、必要なものについては調査対象に加えた。

上記作業の結果、長野県教育関係者から差し出されたと思しき信書として、1,140 点がリストアップされた。それらの信書について、今後の作業の効率化と、将来的な一般公開を視野に入れ、スキャンングによって PDF 化を行なった。

調査開始前までは、調査対象資料点数について、多くても 2~300 通程度と予想していたが、それをはるかに超える量からなる資料であることが明らかとなった。

研究開始当初は、これらの資料について、全点を翻刻する予定であったが、資料点数の増加から全点の翻刻は叶わず、およそ 300 通あまりの信書の翻刻を行なった。翻刻対象とした資料の中には、石井鶴三と長野県の美術教育の関係について考察する際に特に重要と考えられる、上田彫塑研究会初代会長、小林三郎を差出人とする信書 121 点が含まれる。(2)信書差出人について、郷土史、長野県教育史関連資料による調査を行なった。信書差出人としては 265 名が確認された。この中には、石井柏亭、山本鼎、倉田白羊、木村五郎、笹村草家人などといった、長野とゆかりのある芸術家、上田彫塑研究会の初代会長小林三郎を始め、田玉孝平、増田安衛、赤羽国武、町田則義、鷹野悦之輔、滝沢石などの同会会員、伊藤真之介、林勇などの同県内他地域の美術教師、長坂利郎、小野惣平といった信濃教育会関係者、さらには、信州大学教育学部教官であった田原幸三、宮坂彦一などが含まれることが確認された。

彼らの多くは、1946 年の長野県美術教育研究会の結成へと合流していく人物達であり、石井鶴三を中心とした美術教育者の人脈が、大正期から第二次世界大戦後にかけて、長野県の美術教育の思想、実践を形成していったことが明らかとなった。

(3)石井を中心に形成された長野県美術教育界の人脈は広く、それらの人物によってしばしば石井について言及がなされている。そこで、長野県教育界における石井についての言

及について調査し、石井がどのように教育界の中に位置付けられていったかについて検討を行った。

調査の対象として、1886 年にその前身となる『信濃教育会誌』が創刊された信濃教育会機関紙『信濃教育』掲載記事を取り上げた。本誌は信濃教育会総集会などの会議の報告や、信濃教育会とその支部である各郡教育会で行われた講演の筆記記事、また、県内教育者や、長野県ゆかりの学者、研究者らによる研究論文、座談会などで構成されている。その他、県内外における教育関係のニュースや、講習会の案内などが掲載されている。長野県の教育者の多くをその読者としており、教育オピニオン誌として一定の影響力を有していたと考えられる。また、『信濃教育』と石井鶴三の関係としては、1953 年 1 月号(793 号)から 1976 年 3 月号(1072 号)まで、表紙画と題字に石井の絵と書を用いたこともあげられる。

この調査では、石井没年の 1973 年までに『信濃教育』誌上に掲載された記事から、石井による記事 4 編、そして石井に言及のある記事 30 編を確認した。1973 年 11 月号(1044 号)は「石井鶴三先生追悼号」として、石井が『信濃教育』に寄稿していた上記記事の再掲と遺族らの手記、生前の石井にゆかりのあった人物らの寄稿によって編まれている。さらに、追悼企画として、1974 年 4 月号から 1976 年 3 月号まで口絵特集「信濃の美術」が生まれ、石井の彫刻作品のうち長野に関わるものが、石井の指導を受けた教師たちによる解説と合わせ、巻頭グラビアで紹介された。

これらの記事の分析によって次の三つの結論を得た。1)自由画教育運動以降の美術教育の展開の中で、石井による彫塑や絵画の講習会は、教師たちが本格的な美術にふれ、自己研鑽をする重要な機会として認められていた。2)石井の人格や所作が、美術教育に限らない、理想的な教育者像として語られている。3)長野県ゆかりの文化人の顕彰事業に関わる中で、石井はそれらの人物に比肩する県内教育界にとって重要な人物として認識されていった。

(4)本研究の全体的な成果としては、石井鶴三宛て信書のデジタル化と、石井鶴三を中心とした長野県美術教育関係者の人脈の一旦の解明、及び長野県の教育界における石井鶴三の位置付けについて明らかにしたことであると云える。

これらの成果は、今後、長野県の近代美術教育史について検討をしていく際の一つの足場を提供する。中央画壇の芸術家が具体的な教師達と関わり、影響を与えていったことによって、一地方においてどのような美術教育の思想や実践が紡がれていったのかということが、今回の調査の過程で浮かび上がった人物達の実践や言説を検討することで明らかになっていくことが考えられる。また、石井以外の芸術家についても、石井との関係

の中で、長野県の美術教育に様々に関わっていたことも明らかとなった。今後の課題として、それらの芸術家の影響についても検討する必要がある。

研究開始当初の予想を超え、多くの資料を扱うこととなり、それらの判読、デジタル化については行えたが、詳細な読解や翻刻作業については、今後の作業として残されることになった。それらの作業を進めるとともに、デジタル化した資料の公開についても、関係者との調整を行い、実現したい。

<注>

¹ 上野浩道『芸術教育運動の研究』、風間書房、1981。金子一夫『近代日本美術教育の研究』中央公論美術出版、1999。など

² 都築邦春「美術学習における指導の意味-2-藤岡亀三郎の図画教育論について」『埼玉大学紀要(教育学部)』第38巻1号、1989、pp.13-26。

³ 宇田秀士「木下紫水の図画教育：自由画教育前夜の活動について」『美術教育学』第10号、1989、pp.13-27。同「木下紫水的美術教育と自由画教育運動：自由画教育期以降の活動について」『美術教育学』第11号、1990、pp.1-9。

⁴ 資料寄贈の経緯については、『信州大学附属図書館研究』1巻掲載の各論を参照のこと。

⁵ 信書データベースの作成の詳細については、松本和也「石井鶴三書簡の整理を始めて：挿絵(画家)から近代文学・出版(研究)を考え直すために」、『信州大学附属図書館研究』1巻、2012、pp.21-39。に詳しい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

大島 賢一、長野県教育界における石井鶴三の需要-『信濃教育』掲載の石井鶴三言及記事の検討-、美術教育学、査読有、第38号、2017、107-118

大島 賢一、信州大学所蔵石井鶴三関連資料信書差出人に見る長野県教育関係者人脈【報告】、信州大学附属図書館研究、査読無、5巻、2016、19-28、

https://soar-ir.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=17878&item_no=1&page_id=13&block_id=45

大島 賢一、石井鶴三と長野県美術教育の関係について、信州大学附属図書館研究、査読無、4巻、2015、21-28、

https://soar-ir.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=424&item_no=1&page_id=13&block_id=45

[学会発表](計2件)

大島 賢一、長野県的美術教育と石井鶴三-長野県教育史上の石井鶴三の意味について-、美術科教育学会第38回大会、2016年3月、大阪成蹊大学・短期大学(大阪府・大阪市)

大島 賢一、長野県的美術教育と石井鶴三、美術科教育学会第37回大会、2015年3月、上越教育大学(新潟県・上越市)

6. 研究組織

(1)研究代表者

大島 賢一(OOSHIMA, Kenichi)

信州大学・学術研究院教育学系・助教

研究者番号：90645615